



川口市立八幡木中学校

道徳の取り組み



令和8年度 八幡木中学校研究主題

「相手を思いやり、学ぶ姿勢を持つ生徒の育成」
～学び合い、高め合う活動を通した学力・徳力の向上～

道徳部会研究主題

「対話と他者理解を通し、よりよく生きる力を
はぐくむ道徳教育の推進」

本校では、令和8年度学校研究主題を踏まえ、道徳における研究主題を設定し、次の視点をもって道徳に関する取り組みを行っています。

○学級における指導計画の活用

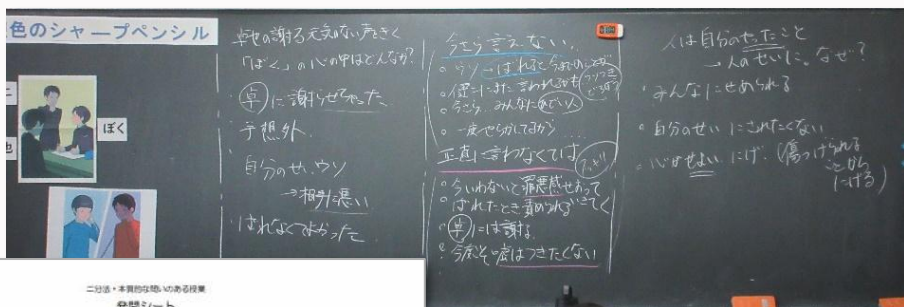
学校指導計画だけではなく、学級ごとに、学級目標・担任や生徒の願いをもとにした道徳教育計画を作成し学級経営に活かしています。

○心に響く資料の収集と活用



生徒がわかりやすく身近な資料も含め資料整備しています。

○道徳性を促す指導の充実



二分法・本質的対話の授業 発問シート

記入者 (西)

担当学年 (1)

授業で扱った教材名 (銀色のシャープペンシル)

道徳的価値 (D 22よりよく生きる喜び)

① 授業を通して生徒に気づかせたい価値

誰しもが心の弱さを持っているが、自分に恥じない選択をすることが誇らしい生き方へつながると気づかせたい。

② 中心発問 10分対話

電話が来た。卓也は「僕の形悪いだった。それに、本当のことを言うところ、少し苦しかった。ごめん」と謝った。卓也の隣、元気のいい声を聞いている主人公「ぼく」の心の中はどんなでしょうか？

予想される生徒の答え

- ・ 本当のことを言う方がいいかな？ → 卓也に申し訳ない。 → 罪悪感がある
- ・ バレなくてよかった
- ・ 本当のことを言うのは怖い。

③ 発言を大きく2つに分ける 10分対話

「みんなの意見では『申し訳ない』とか『バレなくてよかった』という気持ちがあるみたいだね。では、電話口の『ぼく』は『正直に言わなければ』という気持ちはあるの？それとも『今さら本当のことは言えない』という気持ちがあるの？どっちの気持ちがあると思う？」 ※4つずつごとに

※今さら本当のことは言えない 理由を教えてください

○正直に本当のことを言わなければ 理由を教えてください

予想される生徒の答え

- ・ 正直に話す卓也が悪い(恥ずかしい)から
- ・ ずっと黙っているのはスッキリしないから(スッキリしたいから)
- ・ 今さら許してもらえないかもしれないから
- ・ 黙っているのは心臓を打たれたいから

令和6・7年度に実施した道徳研究委嘱で取り組みの主軸となった**二分法**を用いた道徳の授業に今年度も継続して取り組んでいます。資料の内容や発言を大きく二つに分けて発問をしていく二分法には生徒同士の対話活動を充実させ、多様な考えに触れさせることで道徳的価値について深く考えさせるねらいがあります。また二分法の流れを元に生徒の反応を予想する「発問シート」(図左)を活用しながら教材研究を行い、授業で活用しています。



その他の取り組みとして、各学年で**ローテーション道徳**を実施しています。担任だけでなく、全教員で道徳の授業に取り組むことで、授業力の向上を図ります。

○人権尊重を基盤とした指導法の工夫・改善

授業において、互いの意見を否定しないルールを設けています。

○生徒同士が認め合い、高め合える環境づくり

話し合いの仕方のルールを設け、対話が充実するよう促しています。

○非認知能力の向上

「**あいのそなたさ**」を意識的に用いるよう声かけ、掲示をしています。

道徳では・・・

挙手をする時、話す人、発表者が**安心して発表できる集団**(聞ける集団)でなければいけない

「あ」…あいづちを打つ
「い」…「いいね」と言う
「の」…身を乗り出して話を聞く
「そ」…「そうですね」と言う
「な」…「なるほど」と同調する
「た」…「たしかに」と納得する
「さ」…「さすがです」と持ち上げる

オリエンテーションを通して、この内容について校内で共有しています。